

8月17日 13:30～ コンピュータグラフィクスに関する講演（60分）

IT産業の発展に貢献したCGパイオニア ―地方から世界へ挑戦するパイオニアに―

講師：広島修道大学 経済科学部教授、東京大学名誉教授 西田友是（にしたともゆき）氏

≪講演概要≫

CGは1970年代にユタ大学を中心に発展しました。このときCGを学んだ卒業生の多くが今に続くIT企業を起業し、今日のIT産業の繁栄の元になっています。まさに荒野の砂漠の地のパイオニア達から先端のIT産業が生まれたと言えます。知られていませんが、一方、日本でのCGは広島を中心に進展して来ました。地方ということで評価されない期間が長くありましたが、東京大学教授に招へいされ、私はCG分野のノーベル賞と言われるクーンズ賞を米国計算機学会から頂くことができました。こうした功績から、1昨年には「日本のCGのパイオニア」として紫綬褒章を頂くに至りました。

地方都市の広島は原爆投下を受けましたが現在復興し発展しており、長岡も同じく戦後復興を成し遂げています。ユタ州もそうですが地方発で世界的な産業に進展していますので、本講演では地方の可能性についてお話しします。

≪講師略歴≫

東京大学名誉教授、広島修道大学経済科学部教授（プロメテックCGリサーチ所長兼）

昭和48年広島大学工学研究科修了、同年マツダ入社。昭和54年から福山大学電子電気工学科講師、昭和63年から1年間米国Brigham Young大学客員研究員、平成2年から福山大学教授。（平成6年から東京大学理学部非常勤講師を経て）平成10年から東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻教授。平成11年から新領域創成科学研究科複雑理工学専攻教授。2013年4月から現職、また同年に研究所（UEIリサーチ）を設立し、研究所長（現在はプロメテック社に移管され、プロメテックCGリサーチ）。

日本におけるコンピュータグラフィクス研究のパイオニアであり、3次元物体のリアルな表現法、照明シミュレーション（種々の光源、相互反射光の計算、天空光）、景観予測、自由曲面の表示法、CGアニメーション、インタラクティブレンダリング等の研究に従事（1970年から35年以上）。著書に「3次元コンピュータグラフィクス」（昭晃堂）、「ビジュアルコンピューティング - 3次元CGによる画像生成」など数冊。

平成13年から画像電子学会ビジュアルコンピューティング研究会委員長、平成18年から情報処理学会GCAD研究会主査。平成21年から画像電子学会会長。米国IEEE学会のTransactions on Visualization and Computer Graphicsの編集委員など各種委員を歴任。昭和62年情報処理学会から研究賞（現山下記念研究賞）授賞。平成17年米国ACM SIGGRAPHからSteven A. Coons Awardを受賞（アジアで初めて）、平成18年NICOGRAPHからCG-Japan Award受賞。平成18年3月画像電子学会において、CG関連の優秀論文の著者に与えられる賞「西田賞」が創設された。平成29年紫綬褒章受章、平成30年ACM SIGGRAPH Academy会員に選出、同年WIRED Audi INNOVATION AWARD 2018受賞。